

事務局からのお知らせ



これまで「国際音楽祭ヤング・プラハ」は任意団体として活動してまいりました。

しかし、法人格でないことが色々な活動に支障をきたすことが増え、公的機関の助言もいただき、この度「一般社団法人国際音楽祭ヤング・プラハ」の名称で法人登記をいたしました。法人格を得ることにより、社会的信用を高め、より多くの支援者を得て、活動を盛んにすることが出来るようになります。今回の法人登記は以上の背景によるもので活動の目的と内容は任意団体の時と変わりません。代表理事には会長・岩崎淑、事務局長・安東和民が就任いたしました。

国際音楽祭ヤング・プラハは来年、創立 25 周年を迎えます。プラハ本祭、東京コンサートとも、それを記念して例年以上のプログラムを考えております。ヤング・プラハを経験し、現在は国際的に広く活躍しているヤング・プラハ OB・OG にも参加していただき、25 周年を OB・OG、現役、関係者、支援者の皆様で祝いたく考えております。今後とも、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

ヤング・プラハ・フレンズのご案内

「ヤング・プラハ・フレンズ」は国際音楽祭ヤング・プラハの活動を通して若い優秀な演奏家の成長を支援しています。

ヤング・プラハを経験した若い演奏家たちは、ヴァイオリンの神尾真由子(2001年参加)、ピアノの上原彩子(2002年参加)、ピアノのジュゼッペ・アンドロロ口(2005年参加)をはじめ、世界の名だたるコンクールでも活躍し、ヤング・プラハでの経験を糧にますます芸術の高みを目指しています。

フレンズの種類	年会費 (1~12月)
個人会員	一口 10,000円
家族会員 (個人会員のご家族)	一口 5,000円
法人会員	一口 30,000円
特別会員 (ヤング・プラハ出演者)	3,000円以上 (但し出演年から4年間 は無料)



音楽祭は非営利団体として日本・チェコ両国の企業メセナと文化庁の支援、そして実行委員の献身的努力によって運営され、1992 年より1 年も休まずに続けてまいりましたことは、奇蹟といって過言ではありません。しかし昨今の世界的経済不況により運営が危機的状況でございます。この意義ある音楽祭の持続的な発展のために、フレンズの皆様には引き続き暖かいご支援を賜りたく、本年度の継続をお願い申し上げます。また、お知らせの方々にもご入会をお誘いいただければ幸いです。ご入会はホームページからもお申し込みいただけます。
(<http://www.youngpraha.jp/>)

ヤング・プラハ・フレンズの皆様には、活動の様子をご報告する会報をお送りしています。またご支援への感謝を表して、ご支援者様の氏名を音楽祭プログラムに印刷させていただいております。



国際音楽祭ヤング・プラハ通信

第 22 号

国際音楽祭ヤング・プラハ日本実行委員会
事務局: 〒244-0081 神奈川県横浜市戸塚区品濃町558-1-102
Phone: 090-5773-3122 安東 080-4330-5211 橋本
Fax: 04-2994-2466
Email: office@youngpraha.jp <http://www.youngpraha.jp/>

2015 年 11 月 4 日 発行



国際音楽祭ヤング・プラハ日本実行委員会 会長 岩崎 淑

皆様、今年の国際音楽祭ヤング・プラハは成功裏に終了いたしましたことをご報告いたします。

第 24 回国際音楽祭ヤング・プラハは 9 月 11 日から 10 月 1 日まで、プラハとチェコ各地で計 14 回のコンサートを開きました。プラハのヴァルトシュタイン宮殿チェコ上院ホール、ブジェヴノフ修道院テレジンホール、ポーランド大使館ホール、リトミシュルのスメタナ劇場、リトムニェジツェのマーハ劇場そしてファイナルコンサートに使われたプラハのドヴォジャークホール。どれも音楽の歴史を刻んできた素晴らしいホールです。コンサートには毎年、ヤング・プラハを楽しみにしておられる音楽愛好家の皆さんが友人たちと連れ立っていらっしゃいます。目が合うと、今年も来ましたよ、と話しかけられているようです。

今年は指揮の Nicolas Ellis さん(カナダ)、ヴァイオリンの Jasmine Lin さん(カナダ)、クラリネットの Anna Paulova さん(チェコ)、フルートの Yubeen Kim さん(韓国)、オルガンの Peter Hoengesberg さん(ドイツ)、ピアノの Richard Knizek さん(チェコ)、日本からはチェコの岡本侑也さん、ピアノの桑原志織さん、ヴァイオリンの福田廉之介さん、と 9 人のソリストが参加されました。

私はミラノから駆け付け、9 月 30 日のファイナルコンサートに間に合うことが出来ました。桑原さんのピアノ、ヴルチェック氏のチェロ、福田君のヴァイオリンでベートーヴェンの三重協奏曲を聴きました。一般的に演奏される機会の非常に少ない曲のため、プラハの聴衆の皆様の期待と注目も格別だったと思いますが、それに答えて大変充実した演奏でした。ソリストがアンサンブルに挑むという体験は、音楽家として豊かな感性を磨くうえで欠かせない大事な過程です。

この曲は、ベートーヴェンが残した唯一のチェロを伴う協奏曲ですから、チェロパートはことに難曲です。が、実際は曲全体をピアノがリードして演出効果を出すようになっているのです。このコンサートでも、ベートーヴェンの思惑通りと思わされるほど、見事なピアノが土台になって良くまとめていられました。爽やかな印象を残してくれた三重協奏曲でした。



ファイナルコンサートの翌日、ヤング・プラハの関係者でチェコの偉大な作曲家、アントニン・ドヴォジャークの晩年の住まいを訪ねました。Villa Rusalka という名前のこじんまりした邸宅はプラハから一時間の Vysoka 村にあります。ボヘミアの森と畑が広がる静かで平和な空気に包まれたところです。お孫さんとひ孫さんにご案内していただき作曲に勤しんだ部屋、デスク、羽根ペン、ピアノ、ベッドなどを拝見し、お庭を散策させていただきました。ドヴォジャークはここで晩年の 20 年間で過ごし、数多くの名曲を世に送り出しました。オペラ・ルサルカ、交響曲 7 番、8 番、スラブ舞曲、ユーモレスク、ピアノ五重奏曲 2 番など、あふれんばかりのメロディーが産まれた場所に立ち、作曲に打ち込んだ日々のお孫さんからお伺いし、大作曲家を偲び、近所にある記念館でささやかな演奏会を開きました。ヤング・プラハの仲間で過ごした午後は忘れられない思い出となりました。

いつもお手伝い戴いている関係者の方たち、毎年応援して戴いている支援者の皆様、お陰様で今年のヤング・プラハは大成功で幕を閉じることが出来ました。心から御礼申し上げます。来年は創立 25 周年の記念となる音楽祭になるよう、一同、来年に向けて準備を開始いたします。ご支援の程お願い申し上げます。

2015 年 第 24 回国際音楽祭 ヤング・プラハ

今年は、9月11日から10月1日にわたって、プラハとチェコ各都市等で演奏会が開催されました



聖ヴァーツラフ教会にて



ファイナルコンサート in ドヴォジャークホール



Dvorak 記念館



Dvorak の住まい Villa Rusalka にて

福田 廉之介 <ファイナルコンサートに出演>

この度は、第24回国際音楽祭ヤング・プラハに招待していただきありがとうございます。

このような素晴らしい機会をつくって下さった実行委員会会長の岩崎淑先生をはじめ、ヤング・プラハのスタッフの皆様、手厚く支えてくださったすべての皆様に、心より御礼を申し上げます。

今回ヤング・プラハで演奏させて頂いた経験は、自分にとって身になったとしみじみ感じます。

ドヴォジャークホールのような美しいホール、素晴らしい音響で演奏させていただけたこと、また、いろんな楽器をそれぞれ一生懸命頑張る皆さんとコミュニケーションをとり、演奏を聴き、この曲にはこういう良さがあるんだ等改めて知りとても良い刺激を受けました。



また、チェコの方々の僕の演奏に対しての反応など、どうなのかな等心配もありましたが、演奏会の後、聴きにきて下さった方々に素晴らしかったなど嬉しい声を頂き、これからのヨーロッパの様々な演奏会に向けて自信を持つことが出来ました。

僕は、今秋から日本とは環境が異なったスイスでヴァイオリンを学んでいます。いろいろなことが日本とは違って大変ですが、ヤング・プラハでの良い経験を活かし、今まで以上に頑張っていきます。

スイス・ヴァレー州シオン音楽院在学中
ヴァイオリニスト

桑原 志織 <ファイナルコンサート他 に出演>

この度は伝統ある国際音楽祭ヤング・プラハに参加させていただき、ありがとうございました。

プラハのポーランド大使館にてソロ演奏を、また、ドヴォジャークホールのファイナルコンサートでは、ベートーヴェンのトリプルコンチェルトを演奏させていただきました。

ポーランド大使館のサロンは天井が非常に高く、広々と宮殿のようで、ベーゼンドルファー・ショパンモデルの豪華なグラランドピアノがありました。ホールではないのに大変豊かな響きで、ヨーロッパの息吹を肌で感じながら演奏いたしました。大勢のお客様の熱気に包まれ、感謝で一杯の夜でした。

一夜明け、翌朝からトリプルコンチェルトの合わせが始まりました。このコンチェルトは、室内楽と協奏曲の両方の魅力が詰まっており、合わせからとても楽しめました。ソリスト3人は10代、カナダ人の指揮者の方も20代前半という若者ばかり。練習を重ねる中で、互いに信頼と友情が生まれました。

ファイナルコンサートでは本場オーケストラの響きに乗り、国際色溢れる舞台上インスピレーションを得ながら演奏させていただき、大きな幸せを感じました。

岡本 侑也 <オープニングコンサート他に出演>

この度は、国際音楽祭ヤング・プラハに出演させていただき、本当にありがとうございました。

今回が人生初のプラハだったのですが、現地に到着して、まず、プラハの美しい街並みと風景に圧倒されてしまいました。風格のある重厚な建築から、土地の歴史の深さを感じると共に、この街で演奏させていただけると、胸が躍りました。

今回はワルトシュタイン宮殿でのオープニングコンサート、リトミシュル・スメタナホールでの演奏会、日本人学校でのコンサートと、3つの演奏会に参加させていただきましたが、どの演奏会も大変暖かい雰囲気、純粋に音楽を楽しむ事ができ、この上ない幸せな体験となりました。美しいホールの中で、聴衆の皆様と音楽の時間を共有できたことは、貴重な思い出です。

またこの音楽祭を通して、ヴァイオリンのロマンさんやピアノのマーハさんなど、素晴らしい演奏者の方々との出会いがありました。一緒に演奏させていただくうちに、音楽上の新たな発見も数多くあり、沢山の刺激をいただきました。

ドヴォジャークホールは、格式と優美さを兼ね備えた素晴らしい音響のホールで、満場のお客様からの盛大な拍手も格別でした。終演後は様々な方と交流させていただき嬉しく存じました。パーティーもお開きとなり、ホテルへの帰路に渡ったカレル橋からの夜景の美しさは一生の思い出です。

プラハの感動的な景色と共に過ごした一週間は、大変充実した日々となりました。最後になりましたが、このような素晴らしい音楽祭に私を推してくださいました岩崎淑先生に心から感謝申し上げます。また、いつも温かくサポートしてくださいましたフィンダ先生、安東様、チステツキー先生、ヘラー先生、ポーランド大使館の皆様、ご支援いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。この貴重な経験を生かし、さらに精進してまいります。

東京芸術大学在学中
ピアニスト



プラハ滞在中は、演奏会やリハーサル以外にも時間的な余裕があったので、市街地をじっくり散策したり、郷土料理をいただいたり、風土を全身で感じ取ることができました。特にビールの味は格別でした。また、スメタナやドヴォジャークなどの偉大な作曲家のお墓に何うこともでき、一演奏者として

感無量でした。

最後になりましたが、実行委員会の皆様、そしてこのような素晴らしい機会をくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。今回の経験を糧に、これからもより多くの方に音楽の魅力をお届けできるよう、日々努力していきたいと思っています。また11月の日本公演に参加させていただけることを大変楽しみにしております。本当にありがとうございました。

ドイツ・ミュンヘン音楽大学在学中
チェリスト